

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年 月 日

事業所名 放課後等デイサービスあつがる

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0		基準以上の面積を確保している。
	2	職員の配置数は適切である	1	3	1		基準を満たしているが、さらに非常勤職員の募集をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	0		配慮がされている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	0		業務の見直し、改善について支援会議などで話し合い改めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	0		保護者様からの声を大切にして、支援につなげていくようにしている。保護者様の意向を把握し、業務に繋げている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	0		HPIにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0		月2回の事業所内研修の実施及び外部研修には積極的に参加するようにしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0		年2回以上のアセスメントをケース担当だけでなく職員全体で行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	0		バインランドを準備しているが、病院での発達検査を受けてもらっている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	0		活動プログラムはその日のリーダーが決めているが、朝の打ち合わせの際、全員で調整している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0		特に力を入れて伸ばしたいところは続けて入れているが、毎回見直しつつ取り組んでいる。出来る限り、色々なプログラムを取り入れるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	0		本人の負担にならないように配慮している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0		子どもたちの状況を優先し、体調・心情に合わせて計画している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	0		毎日行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	0		終了後は情報共有のみを行い、次の日の朝礼で打ち合わせをし共有を図っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0		子どもの様子を正しく記録するようにしている。ケース記録に毎日記載し、支援会議などで検証・改善につなげるようにしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0		必ず児発管と相談して決めている。モニタリングを行い、計画に沿って見直し作成している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0		ガイドラインを踏まえて支援を行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0		資料を作成し参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	0		学校の協力を得て学校へ面談に赴いたり、電話連絡をしたり、保護者様を通じて連絡を取っている。学校からお便りを頂いて調整している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	3		受け入れる場合はそのようにしたい。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	0	就学前に保育所等に見学に行く機会を設けたり、事業所から話を聞くなど情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	1	3	該当者がいないため行っていないが、必要があれば行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	0	社会的状況を鑑み研修があれば参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	0	3	送迎時、児童館などを利用。その他、利用を促している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	0	1	参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0	連絡ノートを活用し、不足部分は送迎時または電話連絡など口頭で伝える事により共通理解を図っている。面談も行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	0	1	必要に応じてペアトレを用いたアドバイスをを行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0	契約時、面談時に適宜行っているが、何かあればその都度丁寧に説明したい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	0	必要があれば行っているが、相談しやすい環境を提供していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	5	保護者が多忙なこともあり保護者会はないが、要望があれば考えたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	あったことの内容をすぐに周知し、速やかに対応している。職員間で情報共有・改善を図ると共にスタッフに対して資質向上を図る取り組みをしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	0	あつがるつうしんを発行している。写真掲載が可能な子どもたちの活動風景を館内に掲示したりして発信している。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	0	持ち出し禁止にするなど、外部に漏れないように細心の注意を払っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	本人に合わせて会話をしたり、絵カードなどで気持ちを伝えられるようにしている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	0	4	これから行っていきたい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	0	職員には周知されているが保護者には機会を見て説明をするなどお知らせしたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0	速やかに行動出来るように毎月訓練を行っている。長期休みには集中訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	0	内部研修を行い、適切な対応をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	0	計画に反映し、面談時に保護者に説明・了解を得ている。静養室の利用(本人の申し出による)があれば保護者に伝えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	0	医師から診断書をもらい対応している。給食などは除去食を提供している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	0	事例集は作成していないが、ヒヤリハットはあった日のうちに内容を共有し、記録をファイルに保管、いつでも見られるようにしてい	